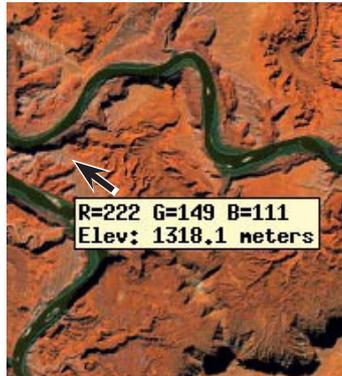


データタイプ、グラフタイプ、それともツールを使いますか？

データタイプ (対話的な操作での設定)

1つもしくは複数のレイヤから位置に関わる情報をテキスト形式で自動表示します。

- ラスタのセル値や実在するフィールドを動的に組み合わせた仮想フィールドを含む任意のデータベースフィールドタイプから表示するテキストを生成。
- 〈レイヤコントロール〉ウィンドウを使って簡単に設定できます。
- 各レイヤのテキストに対して前付け文字や後付け文字を設定できます。
- 表示ウィンドウでアクティブなレイヤ、可視レイヤ、非表示レイヤを含むすべてのレイヤのデータを表示できます。

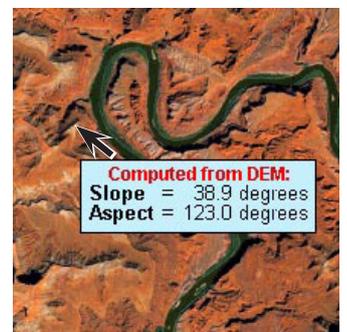


TNTmips では、ウインドウに表示した地理データレイヤについて、カーソルの位置での情報を表示するいくつかの方法があります。通常のデータタイプは、対話的な操作によってエンドユーザが簡単に設定できます。機能強化版のデータタイプやグラフタイプ、ツールは、スクリプトを使って設定します。エンドユーザがすぐに使えるように、地理データレイヤを含むグループやレイアウトとしてパッケージ化が可能です。

機能強化版データタイプ (表示コントロールスクリプトの使用)

場所に固有な情報を表示コントロールスクリプトを使って、テキスト表示します。データタイプのスタイルを変えたり、強調することができます。例としては、複数レイヤのデータタイプに見出しをつけたり、標高ラスタからその場所の傾斜や方位を計算して表示します。

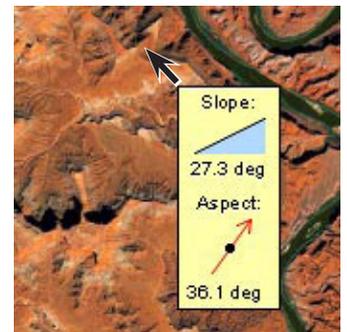
- 表示中のレイヤを使って、その場所の計算結果を表示します。
- 表示していない空間オブジェクトを使って、位置に関連したデータにアクセスできます。
- テキストの内容や背景カラーを動的に変えることにより、表示レイヤの空間的な変化をユーザに喚起します。
- テキストのスタイルを太字や斜体その他のスタイルに切り変えて埋め込みます。
- 簡単なコントロールスクリプトの提供 (ひな形の SML で関数とクラスを使ってデータタイプを設定します)。



グラフタイプ (表示コントロールスクリプトの使用)

グラフタイプは、場所に関連した情報を図で表示します。グラフタイプは、機能強化版データタイプのように、表示コントロールスクリプトを使って設定できます。表示する内容を動的に変えられます。豊富な表現形式。込み入った表現も可能です。例えば、マウスカーソルの近くにあるベクタラインに沿った標高断面図を表示したり、その場所の傾斜や方位を図で表示できます。

- 表示しているレイヤを使ってマウス位置での計算結果を図で示すことができます。
- 表示で使われていない空間オブジェクトを使って、位置に固有なデータにアクセスできます。
- スクリプト内の SML クラスを使ってグラフィック要素とテキストを描くことができます。
- カーソルや表示ウィンドウの角など、基準となる場所の上や少しずらした位置に図を置くことができます。



ツール (ツールスクリプトの使用)

必要があるときのみ、マウス位置の情報を表示します。ツールスクリプトは、表示ウィンドウにユーザが追加したアイコンボタンや [ツール (Tool)] メニューを使って起動し、カーソル位置での計算や近くの要素の選択、描画などマウスクリックに連動したアクションを提供します。

- 表示ウィンドウの内外にかかわらず、空間オブジェクトから、カーソルの位置に関連するデータにアクセスできます。
- ポイント/ライン/ポリゴンのグラフィックツールを使って、表示ウィンドウで要素の選択や描画が可能です。
- 別ウィンドウを作成して開き、処理パラメタを対話的に設定して、結果を表示します。
- 特定のグループやレイアウトに設定したり、全ての表示ウィンドウで使えるように設定できます。

